



平成16年3月期 中間決算説明会

平成15年11月12日
大正製薬株式会社
副社長 大平 明

平成15年度中間決算の概要

(単位：億円)

	15年度 中間期	前年比増減		対予想*	
		(億円)	(%)	修正	期初
売上高	1,463	+60	4.3%	+3	-107
営業利益	317	-20	-5.9%	+42	-25
経常利益	338	-32	-8.5%	+48	-25
当期利益	197	-19	-8.9%	+22	-12
EPS (円)	61.0	-3.2			

*5月発表の期初予想ならびに9月25日修正値との比較。

平成15年度中間決算の概要

● 売上増減要因

< 増収 >

- ・ 医療用医薬品 (+95億円)
(うち富山化学品 97億円
 クラリス +9億円
 アンカロン+4億円
 ロルカム +3億円)

< 減収 >

- ・ リポビタンシリーズ
(-29億円)
- ・ リアップ等 (-8億円)

● 利益増減要因

冷夏の影響でドリンク剤の売上が未達だったこと、大正富山医薬品が連結対象になったことなどにより、原価率は上昇(+2.7%ポイント)、販管費率は0.3%ポイントの改善

< 費用減 >

- ・ 研究開発費 (-23億円)
- ・ 減価償却費 (-3億円)

< 費用増 >

- ・ 販売促進費 (+12億円)

平成15年度中間決算の概要

- その他の損益計算書項目
 - － 持分法による投資損失 9億76百万円
 - － 特別損失：投資有価証券評価損 8億円
（海外バイオベンチャー）
 - － 少数株主損失
- 自社株買いの状況
 - － 当上期の実績 917.5万株、157.3億円
 - － 平成15年10月3日に291.3万株、51億円余の買付けを実施

平成15年度通期業績

	15年度 新予想	前年比増減		対従来予想*	
		(億円)	(%)	(修正)	(期初)
売上高	2,980	+239	8.7%	+0	-120
営業利益	548	+4	0.7%	+33	-21
経常利益	602	-7	-1.1%	+42	-15
当期利益	348	-6	-1.7%	+23	-6
EPS (円)	108.7				

*対従来予想は5月の期初予想ならびに9月25日修正値との比較。

平成15年度通期予想

- 業績修正のポイント
 - － 9月25日の修正後、費用を見直し、利益のみ再修正
 - － 特に研究開発費を減額したが、これは海外ベンチャーとの共同開発を見直したため
 - － 大正富山医薬品の通期業績は売上910億円（従来予想950億円）、営業損益は若干のプラスを見込む

セルフメディケーション事業

単位：億円

	02年9月 中間期	(当期) 03年9月 中間期	前年比	(新予想) 04年3月期 (03年度)	前年比	(期初予) 04年3月期 (03年度)
セルフメディケーション事業	1,033	993	-3.9%	1,945	-0.3%	1,995
ドリンク剤	634	599	-5.5%	1,114	-1.3%	1,144
リポビタミンシリーズ	577	548	-5.0%	998	-2.2%	1,030
リポビタミンD	452	423	-6.4%	758	-2.7%	790
感冒薬	127	128	0.8%	300	4.5%	295
胃腸薬	24	25	4.2%	55	3.8%	53
リアップ等	94	86	-8.5%	175	-1.1%	174
Livitaシリーズ	8	6	-25.0%	15	0.0%	25

セルフメディケーション事業

- 平成15年度上期の市場概況
 - － 薬系市場全体はマイナス3%（当社推計）
 - － 治療薬は風邪薬などを中心に堅調
 - － 冷夏の影響を受けたドリンク剤市場は薬系で8%減、食系で9%減
- 当社のセルフメディケーション事業売上も冷夏の影響によるリポビタミンDなどドリンク剤が未達
 - － ドリンク剤売上は前年比およそ6%減
 - － 治療薬はほぼ計画線 新製品発売も順調
 - － リアップは昨年9月に120mL初期出荷があったため前年比マイナスだが、継続ユーザーの定着進む
 - － Livitaシリーズはグルコケアが競合激化で苦戦

セルフメディケーション事業

- 平成15年度下期
 - 治療薬は夏以降に発売された新製品が寄与
 - ドリンク剤は引き続き飲用頻度アップに努めるとともに、CVS向け新製品が寄与
(リポビタンウインズ、ゼナF0-I)
 - リアップは新規ユーザー拡大に取り組む
女性用リアップも承認へ
 - ヴィックスメディケイテッドドロップは順調に拡大、ヴェポラップも平成16年1月より当社販売に移行
 - Livitaシリーズは下期に新製品投入予定

平成15年度：SMG新製品発売（計画）

< 第1四半期 >

レスティ錠（催眠鎮静剤）
デントウェル〔薬用〕VC（歯磨き）
コーラック坐薬

< 第3四半期 >

ゼナF0-

< 第2四半期 >

エマゼンやわらかフォーム
アルフェホワイト
パブロン鼻炎錠S
パブロンSC
パブロントローチAZ
バランサー胃腸薬
プリザSハイシリーズ
リポビタミンウインズ など

< 第4四半期 >

新水虫薬
新便秘薬
新部外品ドリンク
「Livita」ブランド新製品
富山化学導入品
グイクスグェポラップ 当社販売開始

注：発売済みのもの（オレンジ色イタリック）を除き、すべて現時点での予定ですので、変更の可能性があります。また、一つの項目につき1製品とは限りません。

医薬事業

単位：億円

	02年9月 中間期	(当期) 03年9月 中間期	前年比	(新予想) 04年3月期 (03年度)	前年比	(期初予) 04年3月期 (03年度)
医薬事業	370	470	27.1%	1,035	31.1%	1,105
クラリス	115	124	7.8%	289	6.6%	286
パルクス注	81	69	-14.8%	135	-6.9%	140
ペントシリン	-	31	-	80	-	93
トミロン	-	20	-	59	-	60
ロルカム錠	21	24	14.3%	55	31.0%	59
アンカロン	17	21	23.5%	46	31.4%	46
オゼックス	-	12	-	38	-	41
ソロン	14	12	-14.3%	25	-3.8%	27
メトリジン	13	12	-7.7%	23	-4.2%	24
リーマス	12	12	0.0%	21	-8.7%	21
ルプラック	-	8	-	18	-	20
パシル	-	4	-	14	-	18

医薬事業

- 平成15年度上期の概況
 - － 医療用医薬品市場は1%増
 - － 業績に影響した主な要因
 - ・ 高齢者の定率負担
 - ・ 被用者本人の自己負担3割による受診抑制
 - ・ 後発品の使用促進
- 大正富山医薬品の本格稼働（4月）
 - － 製薬大手並みのMR1000人体制
 - － システム・社員間では大きな問題もなく始動

医薬事業

大正富山医薬品

上期の活動

予想の売上高に至らなかった背景
(50億円の未達)

- 両社の製品教育に十分な時間をかけた
- 組織の再編成によりDRへのコール回数が一時的に減少した
- 富山製品の在庫調整が影響した
- 取引関係の見直しを実施した

医薬事業

大正富山医薬品

下期の展望

- 抗菌薬が繁用される下期が売上のピーク
- 下期以降はシナジー効果により計画通りの売上を見込む
(通期910億円)

新薬パイプライン

(大正)

臨床段階	薬品名	薬効・適応症	自社・共同開発	備考
申請中	クラリス(剤形追加)	抗生物質・錠剤の小型化		
	メトリジン(剤形追加)	低血圧症治療薬・口腔内崩壊錠		
	ソロン(剤形追加)	消化性潰瘍剤・散剤の半量化		
フェーズ2	ABT-773	ケトライド系抗生物質(経口)	アボット	海外はP3中断
	アンカロン(剤形追加)	不整脈治療薬・注射剤		
	NT-702(NM-702)	血管拡張、血小板凝集抑制剤(経口) 間歇性跛行	日産化学	米国 日本はP1終了
フェーズ1	SUN N8075	脳梗塞急性期	第一サントリーファーマ	米国
	TS-011	脳梗塞急性期	自社	米国
	TS-021	Ⅱ型糖尿病	自社	
	TS-022	アトピー性皮膚炎	自社	
前臨床	MGS0028	統合失調症	メルクに導出	
	CRA系化合物	うつ病・抗不安	ヤンセンと共同	

(富山化学)

臨床段階	薬品名	薬効・適応症	自社・共同開発	備考
申請中	T-614	関節リウマチ(DMARDs)	エーザイ	南アフリカ:P2a終了 韓国:東亜製薬へ導出
フェーズ3 フェーズ1	T-3811	ニューキノロン系合成抗菌剤(経口) (注射)	自社	海外:BMS社より開発権および 販売権再取得
フェーズ2	T-588	アルツハイマー型痴呆症・ 脳血管障害後遺症治療剤	自社	英国:P2a終了
非臨床試験	T-5226	関節リウマチ(AP-1阻害剤)	自社	

大正製薬の新薬開発

新薬パイプライン：臨床入りテーマ（下線：海外先行）

平成15年度

平成16年度（予定）

TS-011（脳梗塞）

9月投与開始

睡眠障害

TS-021（II型糖尿病）

第 四半期

うつ・不安

TS-022（アトピー性皮膚炎）

第 四半期

I&II型糖尿病

海外大手企業への導出、共同研究開発テーマ

MGS0028（統合失調症）：メルクへ導出（前臨床ステージ）

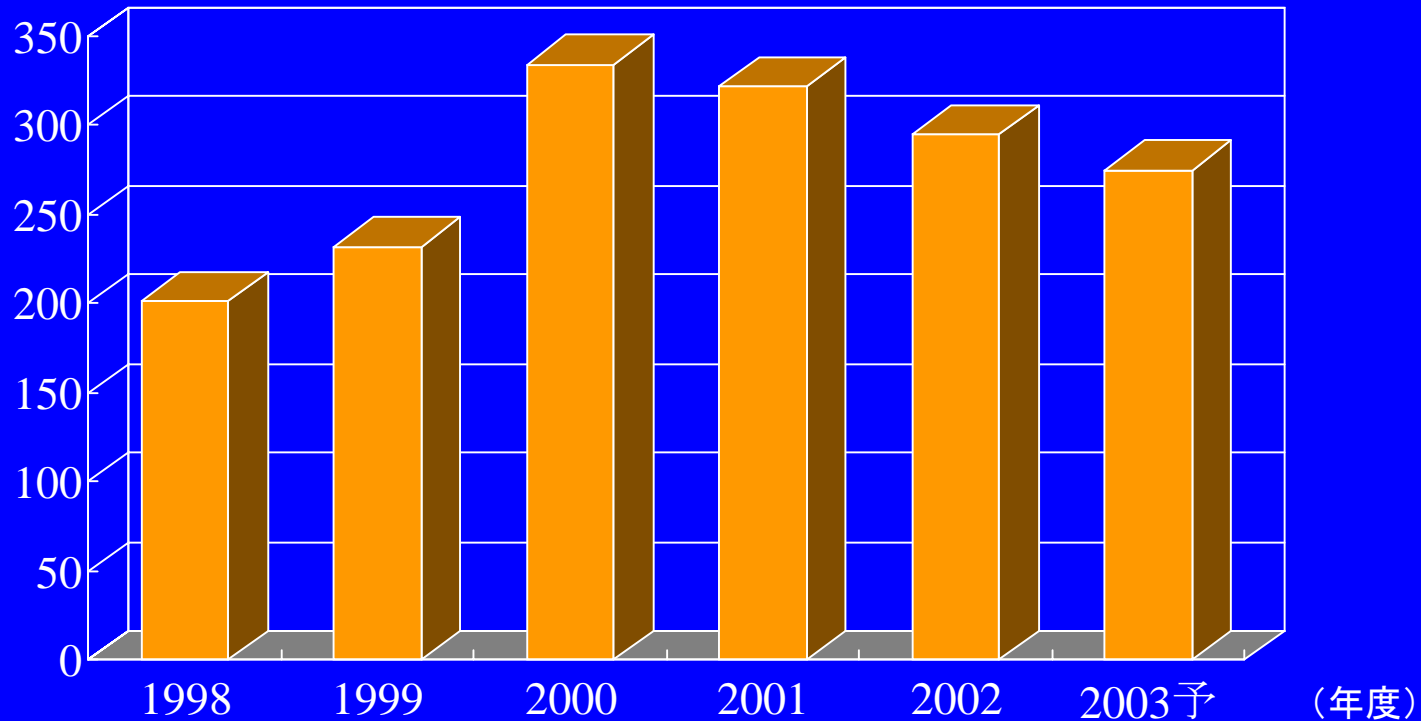
CRA系化合物（うつ・不安）：ヤンセンとの共同研究開発（前臨床ステージ）

オリジナルテーマの概要

開発テーマ	開発段階	国内/海外	薬剤特長・適応症	剤形
TS-011	P1実施中	米国	脳局所血流改善作用を持つ脳保護薬 脳梗塞急性期	注射剤
TS-021	第Ⅲ四半期P1開始予定	国内	Ⅱ型糖尿病における食後高血糖の改善	経口剤
TS-022	第Ⅲ四半期P1開始予定	国内	アトピー性皮膚炎のかゆみを抑制	外用剤

研究開発費の推移

(億円)



03年度はベンチャーとの共同開発離脱などにより、一時的に減少となる。今後、自社品を中心に効率的な研究開発投資を続ける。